

PREX NOW



途上国と関西をつなぐ VOL.263 特集:コロナに負けない

逆境から、 飛躍へ。

国は違っても、どんなに離れていても、
未来に向かって知恵や事例を共有しましょう。



*外務省ジャパンSDGsプラットフォーム

このプラットフォームは、SDGsに関連した情報を社会に幅広く紹介することを目的に、企業、自治体、NGO/NPO、教育機関等の取り組みを掲載しています。

PREXもその中で紹介されています。

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/index.html>



1

明るい笑顔で この困難と一緒に 乗り越えましょう！

株式会社サンパック(吹田市)
代表取締役社長 青山祐二郎氏
家庭用品の企画開発・製造・販売
「大阪ものづくり優良企業賞2016」受賞
2016年3月フットグルーマーが、
発明大賞(発明功労賞)を受賞

こんにちは！サンパックの青山祐二郎です。

うちの会社の売りは商品開発です。「商品をもって世の中を幸せにすることを標榜している企業」として、市場調査から企画、開発、製造、販売までトータルに考えることで、こだわりぬいた商品を世の中に送り出してきました。コロナ禍でもその条件や環境が変わっただけ。人々の生活に役立つもの、普段の何気ない「ケ」の日を「ハレ」にするような、心を晴れやかにする商品をお届けしたいと考えています。

PREXの研修員に「当社の商品開発」について講義をしたときは、忌憚なく
フラットな目で、日本人の思い込みを覆すようなアイデアを出してくれたことが
大変うれしかったです。

たとえば、当社では、足の裏の専用ブラシを開発販売しているのですが、
ウズベキスタンの研修員から「ホテルに商品を置いてもらって、気軽に試してもらい、
気に入った宿泊客が買えるようにしてはどうか」と提案してもらったことがあります。
この言葉をきっかけに、新しい企画を生み出しました。

また雑談の中で、「日本の方は後ろ姿を気にしていないのでは？後ろ姿や姿勢が
気になる」という話題になり、そこにいた全員が賛同していました。ちょうど当社で、
足の親指と人差し指の間に挟んで歩くと姿勢がよくなる「姿勢サポートツール」を開発しているときだったので、「これは、日本人にとって必要な製品だ」と自信を強めたものです。

個人でも様々な国を訪問しました。

初めは「違っていて面白い」と思っていたのが、経験を重ねるうちに、「なぜこんなに違う環境にあるのに、人間は、同じことに悲しみ、楽しむのだろうか。人間は、ベースが同じなのだ」と思うようになりました。日本に来る研修員は、自分とは、生まれた時と場所が違うだけ。人としてお互いに尊敬しあえたらいいなと思っています。違うことへの相互リスペクトができる関係で交流ができるとよいといつも考えています。

帰国研修員へ青山社長からのビデオメッセージを届けました。ビデオレターはこちら！ →QRコード
「国は違えど、『志命』は同じです！前向きな心と明るい笑顔でこの困難と一緒に乗り越えましょう！」





オンラインは未来へつながっている。

●カンボジアの レチュナさん

カンボジア開発評議会(CDC)
事務局長補佐官

2

●ガンビアの モドウさん

貿易・産業・地域統合などを管轄する
中央省庁の産業投資管理部門の職員

3

COVID-19の感染拡大により、私たちみんながこれまでにない変化を経験し、ニューノーマルでの生活を開始しました。しかし、COVID-19が私たちカンボジア開発評議会の活動を止めることはなく、実際に我々はZoomなどのオンラインツールを通じて日々の業務を行っています。

業務に関しては、二国間投資協定に関する投資家へのアフターケアサービスの枠組みの中で、昨年CDCは日本-カンボジア間の投資の自由化、投資促進と保護についての合意の下、第19回と第20回の日本・カンボジア官民合同会議を成功裏に開催しました。

私たちはこれからも対面・オンラインのどちらにおいても手を取り合い、明るい未来を目指して努力していきます。

(2021年1月)

*2019年度 JICA投資促進のためのキャパシティ・ディベロップメント(A)に参加

西アフリカの小さな国、ガンビアのモドウです。ガンビアでは、現時点でCOVID-19による感染者は3,857件が確認されていますが、感染対策を実施したこともあり感染率は大幅に低下しました。政府は、非常事態を解除し、渡航制限をゆっくりと緩和して、ある程度平常に戻りつつあるところです。

私は、JICA研修で得た専門知識を活かして、現在直面しているCOVID-19や今後直面するであろう課題と向き合いたいと思います。

また、研修で出会った仲間や日本の方々がそれぞれの機関における活動の中で、国内の企業がCOVID-19に耐えられるように、また将来につながるように支援し続けることを願っています。

(2021年1月)

*2019年度 JICA投資促進のためのキャパシティ・ディベロップメント(A)に参加

COVID-19は私たちの成長を止めるることはできません。

4



●インドネシアのリアさん

投資調整委員会の職員

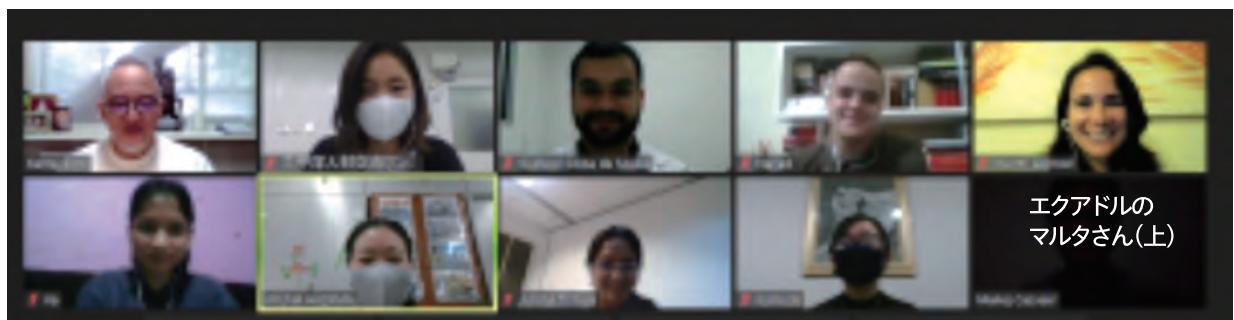
インドネシアのリアさん(写真中央)

COVID-19の感染拡大はインドネシアに大きな影響を与えました。確認された症例数は80万件を超え、今も止まる気配はありません。健康への影響に加え、パンデミックは経済を混乱に陥れ、2020年の第二第三四半期のGDP成長率は連続して縮小しています。政府は大規模な社会的規制やワクチン接種プログラムを含むパンデミックに対抗する様々な手段を取っています。うまくいけば、このプログラムが世界的な大流行を終わらせるかもしれません。

経済を立ち直らせるために、政府は景気回復プログラムを開始し、投資環境の改善を目的とした新たな法律を制定しました。豊富な天然資源と若い労働力に加えて、そうしたビジネス環境と支援体制を改善することで、投資家に対してインドネシアが魅力的な投資先になることが期待できます。COVID-19によるパンデミックは、JICA研修で学んだ重要な概念である”グローバルバリューチェーン”的の混乱を引き起こし、世界がどのように相互に関わりあっているのかを示しました。私は国家間の協力、とりわけ社会的経済的な問題に関する協力体制が今まで以上に必要になると信じています。そして、私はPREXが帰国研修員とのつながりを持ち続けようと努力する姿勢に感謝しています。皆さんのが健康であること、そして一刻も早くこの深刻な状況を脱することを祈っています。

(2021年1月)

*2019年度 JICA投資促進のためのキャパシティ・ディベロップメント(B)に参加



エクアドルの
マルタさん(上)

国や地域の復興、 そして明日へ。

●エクアドルのマルタさん

生産・貿易・投資等を管轄する省庁の職員

5

2019年10月にJICA研修に参加しました。私が日本を訪れてから、世界は大きく変わりました。

エクアドルでは、他の多くのラテンアメリカ諸国と同様に、社会経済的な格差が深刻な問題に

なっています。そして、COVID-19は商業・工業・観光・運輸・保健などすべてのセクターに影響を与えています。感染が拡大しないように、衛生対策やソーシャルディスタンスを保つなどの対策を実施しています。私たちは、現在世界中で直面しているCOVID-19感染拡大による危機から学ばなければならないことがあります。地球上における人類の活動の在り方を今一度考えなければならない機会ととらえています。経済的にも社会的にも、COVID-19の感染拡大による影響からの回復への道のりは長いと思います。ですが、私は国や地域の復興に向けて、できる限りの努力をしたいと思います。復興できるかどうかは私たち自身の手に委ねられているとも思います。研修でお世話になった日本の皆さん、そして一緒に研修した皆さん、関係者の皆さんにエールを送ります。またお会いできることを楽しみにしています。一緒に頑張りましょう。

(2021年1月)

*2019年度 JICA投資促進のためのキャパシティ・ディベロップメント(B)に参加



遠く離れていても
深い意見交換は
十分可能。

アンドレイ ベロフ氏

福井県立大学 経済学部 教授

6

距離を越え、時間を越えて、オンライン同窓会。

2021年1月12日、PREXは中央アジアの同窓会を遠隔（オンライン）で実施しました。

二時間にわたり、日本社会経済状況に関する小講義、質疑応答、同窓生によるプレゼンテーション及び意見交換が活発に行われました。中央アジアの三ヵ国（カザフスタン、ウズベキスタン、キルギス）の方々が参加し、ほとんどの内容がロシア語でやりとりされました。事前に申し込んだのは29名でしたが、当日の参加者は21名で、さらに報告予定者6名中3名が欠席となりました。

日本では考えられないようなことですが、中央アジア・ロシア語圏（特に学会・研究会）ではよくあることなので、今回の会議も「順調」でした。私の講義中、インターネット接続による音声・動画の不具合は若干ありましたが、遠隔でも深い内容の意見交換が十分可能であると感じました。同窓会中及びその後のアンケート結果を見ると、同窓生は、「JICA・PREXの活動」、「改善」、「コロナ禍での日本の中小企業の成功例」、そして特に「日本の研修で得た知識の中央アジアでの利用とその実例」に興味を持っていました。オンラインでの同窓会は初めてでしたが、参加者の多くがこのような交流の機会を高く評価し、今後も実施したいという意見が見られました。

コロナ禍により、対面の国際交流は制限されていますが、遠隔方式での交流を十分に活用すれば、研修後のフォローアップは達成できると感じました。



*PREXは、中央アジアの企業経営者などを対象にした研修を継続して受託実施しており、ベロフ教授には、それらの研修で何度もロシア語での講義を担当いただきました。このたびのオンライン同窓会でも企画から参画いただいた、講義も担当されました。

私が紹介したい国。

今回は、尾崎職員がパラグアイを紹介します。



パラグアイの青空と赤土の大地

地球の裏側にある、もうひとつの日本、パラグアイ

国際交流部の尾崎です。PREXに入局する前、JICAの日系社会青年ボランティアとして2年間、南米パラグアイで日系日本語学校の運営全般に携わる活動をしていました。

パラグアイはブラジル・ボリビア・アルゼンチンに囲まれる内陸国で、表と裏のデザインが違う珍しい国旗を持つ国です。真っ青な空と赤土の大地、夜空には南十字星…、自然豊かなゆったりとした時間が流れています。私が活動していた地域は、ブラジルとの国境に位置するペドロ・ファン・カバジェロ市という商業が盛んな町でした。国境といつても垣など一切なく、両国を自由に行き来できてしまうので、買い物しながらブラブラ歩いていると徐々にポルトガル語が聞こえはじめ、お釣りはリアルになり、いつの間にかブラジル側に入っている！という日常。旅行者もうっかり出入国手続きを忘れてしまうような何とも珍しい魅力的な町でもありました。

今回はそのパラグアイに力強く根付いた日系社会について、少しご紹介したいと思います。日本人の南米移住が国策として開始されたのが1899年。パラグアイへの入植は1936年に始まりました。多くの困難を極めた赤土の大地開拓から始まり、現在、日本人移住地が10地区、約1万人の日系人の方々が生活されています。各移住地には日本人会や農協、日本語学校が設立されており、日本語学校では日系3世・4世の子ども達が日本文化や日本語を学んでいます。ただ、どの移住地でも世代交代が進むにつれ、日本語離れが急速に進んでいるのが実状です。一方、日本文化や行事は日本よりも大切に継承されていると感じました。各移住地で開催される行事では毎回驚くほど多種多様な日本料理が並び、日本食レストランや専門店も多く点在しているので、日本食が恋しくなることはありません。肉食傾向の強いパラグアイの食卓に野菜を食べる習慣を広めたのも、移住当初の日本人です。両国の心を持つ日系社会の方々と手を取り合えば、パラグアイと日本、双方の発展につながるビジネスチャンスもまだ多く眠っているように思います！

今後もお世話になったパラグアイや日系社会の方々とのつながりを大切にし、少しでも恩返しができればと思っています。

ぜひ、「地球の裏側にあるもう一つの日本、パラグアイ」を訪ねてみてください！

(国際交流部 尾崎)

* PREXウェブサイト「世界は人で、できている」では、
PREX職員が、さまざまな国的情報を紹介しています。→



こどもの日：パラグアイ
の青空を泳ぐ鯉のぼり



世代を超えて受け継が
れる日本料理

途上国の人材育成研修とSDGsの関わり

PREXは設立以来、途上国の人材育成のため研修事業を実施し、2021年3月現在、実施した研修件数は800件を超え、累計参加人数は18,729名となりました。

途上国人材の育成はSDGs達成に必要不可欠です。

途上国人材を育成する研修がSDGs達成にどのように関連しているのか、ご紹介します。

JICA「中小企業振興政策」研修とSDGsの関わり

【研修中】

中小企業政策・施策・制度づくりに携わっています



Y's coffee Roaster & Baked Shopさんに訪問して、どのような行政支援が役だったかお話を伺いました。

【帰国後の活動】

中小企業からの経営相談対応や創業支援体制の強化など



ナイジェリアのラゴス商工会議所内に中小企業サポートセンターを立ち上げました



零細中小企業の経営状況改善
(金融アクセスや経営相談窓口など
環境改善の結果)・起業の増加



雇用増加



食費が
貯まる



医療費に
回せる余裕
ができる



教育費に
回せる余
裕ができる



失業者が
減り政府や
世界への
不満が減る
紛争や
戦争の回避

PREX「ベトナム人リーダー育成研修」とSDGsの関わり

【研修中】

研修後の活躍を期待しています



リーダーとして技能実習生や
後輩に技術や学んだことを
伝えたいと思います。



パートナーシップで
目標を達成しよう

ベトナム人を雇用している
他の企業との
ネットワークができる。

【研修後、日本で】

整理整頓をするなど
3S活動を始めました。



働くモチベーション
が高まる

ベトナム人を雇用し
やすくなり、中小企業の
人手不足解消に貢献



日本文化理解が進み、
日本人社員との相互理解
が深まる

【研修後、ベトナムで】

現地で他の従業員を
引っ張っています。



現地人材が
育成され、ベトナムの
産業基盤ができる



会社が成長すれば
現地人材の雇用拡大

研修員のガバナンス理解向上や研修員の日本でのより暮らしやすい環境づくりなど、PREXはSDGsの実現に向けて、もう一歩進んで取り組んでいきたいと思います。

その他にも観光振興や省エネ施策立案、上下水道整備、太陽光発電導入に関する研修も実施してきました。



NEWS &TOPICS

各国との往来が困難な状況ですが、PREXでは、オンラインやクラウドサービスを活用した研修やイベントに取り組んでいます。今号は、企業や研修員の皆さんからの「困難と一緒に乗り越えよう」というメッセージをお届けしました。ご意見をぜひお聞かせください。お待ちしています。 E-mail: prexhrd-pr@prex-hrd.or.jp

初めての遠隔プログラム

訪日研修とは違い、現場体験や対面でのインタラクションを織り込むことは困難ですが、逆に、「遠隔だからこそできること」に発想を切り替えて、研修員個々人へのきめ細かな対応やフィードバックに、ITツールも最大限活用しながら取り組みました。通常業務と並行しながらの研修員も、週末に集中的に課題をこなし、積極的な取り組み姿勢でした。終了後のアンケートでも各教材とプログラム内容に概ね高い評価を得ることができました。

(国際交流部 広瀬)

～2020年度JICA先進国市場を対象とした輸出振興・マーケティング戦略(A)～

★日程 2020年11月23日～12月11日

★参加者 輸出促進業務に携わる政府・公的機関、地方自治体の職員、及び商工会議所、業界団体等民間組織の管理職8カ国20名

★参加国 アフガニスタン、アルメニア、ジャマイカ(6)、モルドバ(4)、モンテネグロ、ペルー(4)、ウズベキスタン(2)、メキシコ

立命館大学の留学生にオンラインビジネスマネジメント研修を実施しました。

1月21日、22日、立命館大学 国際関係研究科 博士課程(前期)の留学生24名を対象に、ビジネスマネジメント研修(オンライン)を実施しました。

日本企業の経営手法や経営管理の基礎(モノづくり、経理・財務、人事・労務)を学び、企業との意見交換会を通して日本企業に関する実践的な知識、経験を習得するプログラムです。

(国際交流部 狹間)

参加国:キルギス、ラオス、ミャンマー、カンボジア、ブータン、ネパール、ガーナ、中国、インドネシア、ザンビア



Zoomで近畿工業株式会社への訪問と田中聰一代表取締役による講義を配信した様子。

1月からPREX公式Twitterスタート！

PREX（公益財団法人太平洋人材交流センター）
22件のツイート

... フォロー申

上本町SDGs大学、「SDGs×性の多様性」と「SDGs×環境」を開催しました。

PREXの地元「大阪上本町」地域を舞台に、2019年3月からスタートした「上本町SDGs大学」。第6回、第7回はオンラインで開催しました。毎回、素敵なゲストスピーカーに登壇いただいて、SDGsを考えたい、語りたいという方に参加いただいています。

現在2021年度の予定を計画中です。



第6回 12月16日 「SDGs×性の多様性」
特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ
理事長 村木 真紀 氏

第7回 2月5日「SDGs×環境」
一般社団法人アース・カンパニー
プログラムマネージャー 藤本 亜子 氏

各回のレポートはや次回のご案内はPREXウェブサイトからご覧ください。



MBSのTV番組「よしもと新喜劇NEXT」のSDGsミニコーナーで、PREXのSDGsソングが紹介されました。

1月20日放送の番組の中で、よしもと新喜劇のギター芸人 松浦真也氏がPREXの活動を歌で紹介しています。こちらのサイトから↓
<https://dizm.mbs.jp/title/?program=sdgs&episode=50>



PREX NOW第263号(2021年3月発行)
編集・発行:公益財団法人 太平洋人材交流センター
専務理事・事務局長:岡本 譲
〒543-0001 大阪市天王寺区上本町8-2-6
大阪国際交流センター2階 TEL.06-6779-2850
ホームページ:<http://www.prex-hrd.or.jp>
E-mail:prexhrd-pr@prex-hrd.or.jp
企画制作:ユナイテッド・トゥモロー